

学習指導要領

第4学年の目標(2)※重点
筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関りの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。

教師の願い

- ・論理的に自分の考えをまとめられるようになってほしい。
- ・課題解決につながる協働を行うことで新しい視点に気づき、学びを深めていけるようになってほしい。

児童の実態

課題を立てることや自分で学ぶ方を考えて課題を解決していくことにはどの児童も慣れていて、前向きに取り組む様子が見られる。学習課題の解決に向けた対話が、考えの伝え合いで終わってしまうことに課題が見られる。

校内研究主題

主体的・協働的な学びを通して、思いや考えを深める児童の育成

<「主体的・協働的」の捉え>

教材に対して自分で課題を見付け、解決しようすることができる。そのために、友達や教師の考えを受け止め、自分の考えに生かすことができる。

<「思いや考えを深める」の捉え>

相手の考えを受け止めてさらに自分の考えを深め、問題解決の過程を振り返るなどして、自分の考えを明確にすることができる。

目指す児童像(中学年)

進んで対話し、互いのよさを認めながら、自分の考えを明確にできる児童

仮説

意欲的に取り組むことができるように導入を工夫し、学習課題を自分で立て、課題を解決するための方法を自分で選べるようにすることで、児童は主体的に考えを伝えたり聞いたりしながら考えを明確にしていくことができるだろう。

研究主題に迫る手だて ～個別・探究の学びを深めるために～

(1)意欲的に学習するために

①学習課題の工夫

自分の興味・関心に基づいて、探究したい学習課題を自分で立てさせる。

②学び方の工夫

学び方を自分で選ばせる。

(2)学ばなくてはいけないことを学習するために

○指導計画の工夫

共通課題に取り組む時間(ポイントレッスン)を設定する。

(3)協働を活発にするための工夫

①「お助けボード」の活用

それぞれの学習課題を全員が見ることができるようにする。

②「三角ロジックプリント」の活用

自分の考えを明確にしたり、相手の考えを理解して受け止めたりすることができるようにする。

第4学年国語科学習展開案

令和4年2月10日(木) 第5校時
杉並区立高井戸第二小学校 4年1組 34名
授業者 主任教諭 斎藤詩代

1 単元名 読んで感じたことをまとめ、伝え合おう「初雪のふる日」 10時間扱い

2 単元の目標

- 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思C(1)オ)
- 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。(思C(1)カ)
- ◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思C(1)エ)
- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知(1)オ)

3 単元の評価規準

知識・技能	①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(知(1)オ)
思考・判断・表現	②登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(思C(1)イ) ③登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(思C(1)エ) ④文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(思C(1)オ)
主体的に学習に取り組む態度	⑤学習の見通しをもって、進んで読んで感じたことをまとめて、文章を読んで感じたことや考えたことを共有して、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付こうとしている。

4 単元について(教材観 児童の実態)

(1)学習指導要領との関連

第3学年及び第4学年の内容

[思考力、判断力、表現力等]

C読むこと

- (1) エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。
- オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。
- カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

[知識及び技能]

- (1) オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。

(2)学習材観

ふと見つけた石けりの輪に足を踏み入れた少女が、雪うさぎの列に入り込んで歩みを止めることができぬまま、見知らぬ街まで行ってしまうという物語である。場面は絵巻物のように移り変わり、それとともに、登場人物の気持ちの変化が描かれる。児童は、「この子はどうなってしまうのだろう。」と緊張感や好奇心をもって、場面の様子と登場人物の気持ちを読んでいくことが予想される。また、この物語は何に注目して読むかによって、読者が抱く印象に多様性が生まれる内容であると考えられる。児童の抱く印象の違いを受け止めつつ、本作品をどのような物語だと評するか、それはどんな印象や、着目した言葉や、表現からそういえるのかについてまとめ、感想を交流することができると考えられる。

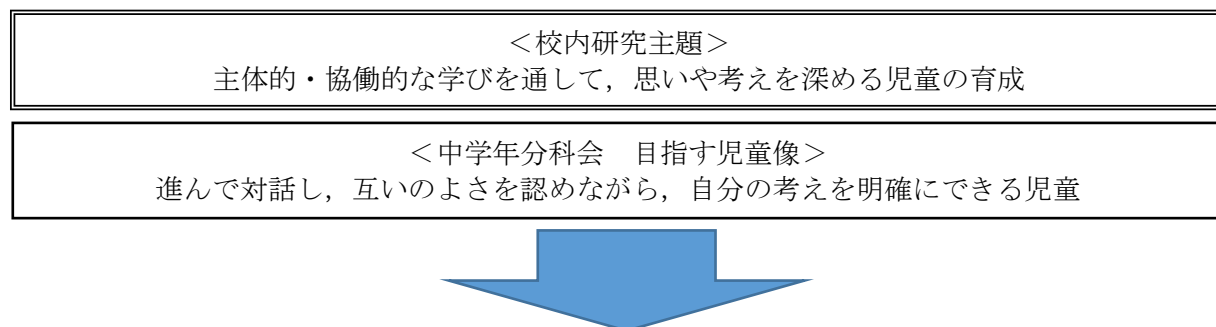
(3)学習者について

児童は、4年生になってから「白いぼうし」「一つの花」「ごんぎつね」「プラタナスの木」の物語文の学習をしている。どの教材も学習課題を立てて解決していく方法で学習してきたため、学習課題を立てることや自分で学び方を考えて学習課題を解決していくことにはどの児童も慣れている。また、この学習方法に前向きな様子が見られる。学習課題の解決に向けて積極的に友達と協働したり、全体での学びの際に進んで発言したりするなど学習に意欲的な児童も多い。

その一方で、協働の時間がお互いの意見交換で終わってしまったり、友達の考えに安易に賛同して丸写しをして終わってしまったりするなど、学習課題の解決に向けて友達と学びを深めていくことに課題が見られる。

また、叙述をもとに論理的に自分の考えを述べるのが難しい児童も数多く見られる。後述する手立てを講じて、どの児童も自分の考えを明確にし、学習課題の解決に繋がる充実した協働を行うことで新しい視点に気付いたり学びを深めたりするようにしていきたいと考える。

5 研究主題に迫る手だて



(1)意欲的に学習するために

①学習課題の工夫

意欲的に学習に取り組むために、児童の「考えたい」という思いを大切にしたい。そのために、自分の興味・関心に基づいて探究したい学習課題を自ら作らせる。一見指導事項につながらないと思われる原初の学習課題でも、児童の立てた学習課題の背景には、その子なりの理由や意味がある。児童一人ひとりの心の奥底にある思いを受け止めていく。

②学び方の工夫

「一人で考える」「友達と考える」「みんなで考える」「先生と考える」など、学び方を自由に選べるようにし、学ぶ場所も自席に限らず自由に移動できるようにする。さらに、一つの学習課題にかかる時間についても児童にゆだねる。多様な学び方を認めることで、児童が安心して学習に取り組むことができるようにする。また、自分の考えを記述する方法に関しても、後述の「三角ロジックプリント」を活用する他は、ノートを自

由に使って好きなまとめ方で記述できるようにする。

(2) 学ばなくてはいけないことを学習するために

○指導計画の工夫

児童が考えを深めるためには、基礎的な知識や物語の理解が必要となる。そこで、学習課題を立てる前に物語の内容の大体をつかむ「なぞときタイム」を設定する。ここでは、作者、登場人物、あらすじなどの物語の大体を確認する。さらに、本単元で指導すべき内容を押さえるために、学習課題を解く時間の中でポイントレッスンの時間を設ける。ここでは、学習課題とつなげながら指導事項を押さえられるようにする。ポイントレッスンでは、学習者の状況を見ながら以下のような言葉や表現に着目できるようにする。

ポイントレッスンで着目させる言葉や表現

・天気などに関係する言葉

「秋の終わりの寒い日」「ほろほろと雪がふり始めました」「空はどんよりと暗くなり、風も冷たくなりました」「ふぶきになる」「春のよもぎの野原」「あたたかいお日様と、たんぽぽの花と、みつばちと、ちょう」「よもぎ、よもぎ、春のよもぎ」

・色や、触った感じを表す言葉

「赤いセーター」「白いもよう」「真っ白うさぎ」「一本の白いすじ」「ほほは青ざめ」「あざやかな緑」「うら側には白い毛のふっくりと付いた」「ほほは、ほんのりばら色」

・大きさや数などを表す言葉

「もう後から後から」「うさぎの歌声はどんどん大きくなり」

・繰り返しの表現

「かた足、かた足、両足、かた足ー」「どこまでも、どこまでも、世界の果てまで」

・詳しくする表現（修飾語）

「なあんて長い石けり」「ぴょんと飛び込んで」「犬が歯をむき出しにしてほえました」「目をぱちぱちさせました」「ふっとすてきななぞなぞがかびました」「女の子は目をつぶって、大きく息をつく」と「一息に言いました」

・対比的な表現

「かた足、かた足、両足、かた足ー。」「かた足、両足、とんとんとんー。」

(3) 協働を活発にするための工夫

①「お助けボード」の活用

多様な考えに触れ、いろいろな友達と協働して学びを深められるように、個別の学習課題を掲示し（お助けボード）いつでも見られるようにする。また、各自の学習課題の進捗状況をシールで示し（青→解決した、黄→もう少し、赤→まだまだ）お互いに見られるようにすることで、相手の思考の状況を把握し、児童同士で声をかけながら学習課題の解決ができるようにした。困っている児童が解決できた児童に相談したり、学習課題が解決した児童同士が話し合っただけで更に考えを深めたりできるようにする。

②「三角ロジックプリント」の活用

「叙述（本文に書いてあること）」「理由（自分の経験や解釈、これまでの学習との結びつき）」「主張（自分の考え、結論）」の3つの項目を分けたプリント（「三角ロジックプリント」）を活用して、学習課題の解決に取り組ませる。このワークシートを活用することで、自分の考えを明確にしたり、相手の考えを理解して受け止めたりすることができるようになることが期待できる。協働の質を高めることにつなげる。

6 単元の指導計画(全 10 時間扱い)※標準時間7時間

時	目標	主な学習活動	評価規準（評価方法）
0	・学習材に慣れ親しむ。	・家庭学習で音読を行う（1 週間前から）	
1	・既習の学習を振り返り，身に付けた力を確認，感想をもつことができる。	・既習の学習を振り返り，単元で身につけた力をつかむ。 ・「初雪のふる日」の題名から想像することを話し合う。 ・学習材の範読を聞く。	【主】単元の見通しをもち，読書会を行うことへの興味をもっている。（観察）
2	・学習材を読み，感想や自分の考えをもつことができる。	・学習材を読み，感想や考えたことをノートに書く。	【知】「思ったこと」「疑問をもったことやくわしく読みたいこと」「気になったこと」等を様子や行動，気持ちや性格を表す語句を用いながら書いている。（ノート）
3	・物語文の構成を理解し，話の内容の大体をつかむことができる。	・話の内容の大体をつかむ。（「なぞときタイム」）	【思】登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（ワークシート）
4	・学習課題や学習計画を立てることができる。	・初読の感想を基に，学習課題を立て，短冊に課題を書く。 ・学習計画を立てる。	【主】初めの感想をもとに，読みの課題を作り，学習の見通しをもっている。（ノート・短冊）
5 6 7 8 (本時)	・学習課題を追究し，考えをまとめることができる。 ・着目する言葉や表現を手がかりに，登場人物の気持ちを想像することができる。 ・言葉や表現に着目して読んだことを生かし，自分が感じたことをまとめることができる。	・学び方を自分で選び，自分の学習課題を解く。 ※必要に応じてポイントレッスンをを行う。	【思】登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（ワークシート・観察）
9	・初めの感想と学習課題を解いた後の感想を比べ，物語の印象のまとめ方などを考えることができる。	・改めて感想文を書き，自分の初めの感想と読み比べる。	【知】様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増やし，文章の中で使い，語彙を豊かにしている。（ワークシート・観察） 【思】文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。（ノート）

10	・友達と自分の感じ方の違いを比べ、一人ひとりの感じ方などに違いがあることを楽しむ。	・感想文を読み合う。	【主】学習の見通しをもって、進んで読んで感じたことをまとめて伝え合い、文章を読んで感じたことや考えたことを共有して、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づき、認め合っている。(観察)
----	---	------------	---

7 本時の学習(7/10)

(1)ねらい

自分の学習課題を追究する中で、言葉や表現に着目し、登場人物の気持ちを具体的に想像することができる。

(2)展開

学習過程	指導事項・主な学習活動 等	○教師の手だて◆評価 (評価方法)
1 前時の学習活動を振り返る。		
2 今日の学習の流れとめあてを確認する。		
理由をはっきりさせて、課題をかい決しよう。		
3 前時の学習を振り返る。	スクリーンに掲示された児童のノートやプリントを見ながら友達の解釈や学び方を知る。	
4 ポイントレッスン	物語の終末の場面の主人公の気持ちを、それまでの場面を踏まえて考える。 「家に帰るバスの中、女の子はこの不思議な出来事をどのように感じただろうか。」 例1「よもぎの野原で石けりしているような気もち」になり、こわさに打ち勝ったが、「ああ、助かった」から、最後には怖い思いが強く残ったと思う。 例2 白うさぎと出会い、怖い思いをしたが、春のよもぎに助けてもらって少し温かい気持ちになったと思う、等。	

